



筆者は塚の意については同感である。この地の砂丘から多くの板碑が出土していることから納得いたびできるが、フジについては富士浅間信仰による富士とは考えられない。何故ならこの地の村名は、富士浅間信仰による修験・行者によつてつくられた「富士塚」は村名発生の時代より後世のことと推理したからである。私見としては、古利根川沿いの砂丘（利根砂丘はほとんどが河の東側または左側にある）より考えて、砂丘の淵にあるところから「淵塚」が変化してフジ（藤）塚となったものと解する。

〔赤沼〕 埼玉県地名誌には、赤沼については述べられていない。

この地内には昔水害によつて、俗に言われている「オツポリ」となつて生じた大きな沼がある。別名「薬師沼」と称している。古老の語り伝えによると、昔この場所に薬師堂が祀られた小さな池があつた。利根川（現古利根川）の洪水によつて池が押し掘られて沼と化した際、この堂宇も沼の中に沈んだという。或る時村人が沼の様子を探っていると、一枚の竜を彫刻した木片を発見した。その後村内に災いがたえないので、竜神の怒りとおそれ、法要を営み災いを鎮めたという話が語り伝えられている。この物語りから推理してアカヌマとは、薬師様に供える「閼伽あか」（梵語で、仏に供える香水の意）の沼、いわゆる「閼伽沼」が変化して「赤沼」となったものと解する。

歴史余話についてのご意見・ご批評を左記までお寄せください※。

春日部市粕壁東三・二・十九

粕壁小学校第三校舎内

春日部市史編さん室宛

初出「広報かすかべ 昭和五十四年九月」かすかべの歴史余話

※1 原文では「贅」については、「此」が偏で「角」がつくりである。

※2 掲載当時のまま作成しました。現在は、ご意見・ご批評を募集しておりません。また、市史編さん室は、

春日部市教育センターで活動しております。(平成二十八年十月現在)